

## 門司港レトロ15周年 祝賀会と記念誌発行

門司港レトロがグランドオープンしたのは平成7年3月25日。同年12月には「門司港レトロ倶楽部」が発足し、ともに今年で15周年を迎えました。昨年12月15日、門司港レトロ15周年を記念した祝賀会が門司港ホテルで開催されました。

門司港レトロ倶楽部は、民間のボランティア団体と門司港地区の主な企業及び行政が一致協力し、門司港レトロ地区の観光振興と地域の活性化を推進することを目的として発足したまちづくりの組織です。古い建物を活用する観光資源の開発、地域情報誌「レトロタイムズ」の発行、地元の芸術家が集まる「門司港アート村」の設立、「門司港レトロフェスタ」開催「関門海峡花火大会」支援やイベント企画など、年

間200件以上の事業を行ってきました。こうした活動が実を結び、門司港レトロは今では年間230万人もの観光客を集める九州有数の観光地として、全国的にも有名になってきています。門司港レトロ倶楽部では、15周年を記念して「愛しの門司港～門司港レトロ15年のあゆみ～」を発刊しました。

「門司港レトロ倶楽部」を組織する団体の情報、門司港レトロのイベント、門司港レトロふるさとの歌、「座談会：



▲門司港レトロ15周年祝賀会には多くの方にご参加いただき、盛況のうちに幕を閉じました。

## 「出光史料館(門司)」が リニューアルオープン

出光美術館は、平成12年に出光コレクションを展示する美術館として門司港レトロ地区に開館しました。建物は大正期に建てられた倉庫を改装・増築したもので、レトロな雰囲気に包まれた個性あふれる美術館として人気です。

敷地内には、出光興産の創業者であり、出光美術館の創設者である出光佐三氏の生涯の軌跡を紹介する「出光史料館(門司)」が併設されています。東京の出光興産本社にあった当時の執務室もそのまま移築・再現し、公開しています。出光興産の創業100周年を記念して平成23年4月、この「出光史料館(門司)」がリニューアルオープンしました。

出光佐三氏は明治18年、福岡県宗像郡赤間町(現・宗像市)に生まれました。明治44年、福岡県門司市(現・北九州



▲リニューアルした出光史料館(門司)  
出光興産創業者出光佐三氏▶

市門司区)に出光商會を創立。その後、イランからの石油の輸入や、当時日本一の規模を誇る製油所の建設などを行い、「日本の石油王」と呼ばれましたが、終生「社長」でも「会長」でもなく「出光商會」の一介の「店主」を押し通しました。経営者として「人間尊重主義」と「大家族主義」を最も大切なモットーとした出光佐三氏の生涯の軌跡は、今を生きる私たちにも多くのことを教えてくれそうです。

## 羽原清雅氏「門司港」 発行と講演会開催

「門司港」～発展と栄光の軌跡～夢を追った人・街・港(書肆侃侃房)が1月に発行されました。著者である羽原清雅さんは、朝日新聞西部本社の編集局長、代表などを歴任した人物で、「国会」「茨城昨今」など数多くの著書を執筆。現在は帝京平成大学教授、新宿区教育委員長、北九州市「ひまわり大使」を務めます。

「門司港」は、叡智と富と力が交錯する日本近現代史の縮図。明治から戦後復興、そして発展まで約100年にわたり繁栄を誇った門司港を舞台に繰り広げられた人間模様。贅を極めた料亭「三



宜樓」に集う人々、喘ぎながら人生を閉じる人々、大陸と行き来した人々。人と街が織りなしてきた門司港の歩みをまとめた1冊です。

3月9日には門司港ホテルで、「門司港～発展と栄光の軌跡～」と題された出版記念講演会が開かれ、おおぜいの方が参加しました。

プレゼント  
**Present** 20名様  
門司港ホテル特製「焼きカレー」  
20名様にプレゼント!



レトロの街「門司港」から皆さんに素敵なプレゼント! ハガキにプレゼントの品名・住所・氏名・TELを明記の上、下記の宛先までお送り下さい。また、この情報紙のご感想もぜひ、お寄せ下さい。皆様からのたくさんのご応募、お待ちしております。

〈宛先〉〒801-0852 北九州市門司区港町7-18(北九州市旧大阪商船2階) 門司港レトロ倶楽部 「レトロタイムズ・プレゼント係」

〈メ切り〉平成23年6月30日(木) 必着  
※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。



▲門司港レトロ15周年記念誌「愛しの門司港」

明日の門司港を語る」、「ザ・レトロタイムズ」(創刊号～24号)、レトロの歩み年表などからなる、A4判全126ページの記録誌で、これまでの15年のあゆみが、この1冊にまとめられています。15周年を機に、これからも「おもてなしの心」を合言葉に、官民一体となって上質な観光地としてのまちづくりをめざして努力してまいります。

## 今年も「ふぐと灯りと ひなまつり」を開催

門司港レトロに明治から昭和中期までのひな人形が勢揃いし、ふぐ形ランタン(提灯)とのコラボで観光客を楽しませました。2月5日から3月27日まで開催された「ふぐと灯りとひなまつり」は、「灯りの祭典」「ふぐフェア」、そして「ひなまつり」の3つの催しが一度に楽しめる、門司港の冬の一大イベントです。ひな人形は市民からの寄贈品で、旧門司税関やJR門司港駅、栄町銀天街など約20カ所で展示されました。和紙でできたふぐ形ランタンがひな人形を照らす様子は「門司港らしい」と好評で、ふぐ鍋やふぐひれ酒の振る舞いもありました。



## 門司港アート村の10人 「小倉展」を開催

門司港アート村の10人のアーティストによる展覧会が、3月23日から29日まで地元北九州市の小倉井筒屋新館7階「美術画廊」で開催されました。門司港アート村では毎年、アート村で生まれた作品を発表する「門司港アート村展」を行っており、開催の場所は福岡・京都・東京と広がっています。今回は、川端孝則さん(ろう彩画)、橋上三喜子さん(創作和紙)、白石秀樹さん(弦楽器)、前田亮二さん(染色)、岩倉圭二さん(粘土造形)、郷原良成さん(陶芸)、福井理絵さん(彫金)、花田博司さん(木工)、松浦孝さん(彫刻)、手嶋大輔さん(彫刻)の10人が感性あふれる作品を通して、アート村をアピールしました。



## information

**出光美術館(門司)**  
源氏絵と伊勢絵  
～恋ものがたりの世界～  
●4月1日(金)～  
5月22日(日)



**茶陶の道**  
●5月27日(金)  
～8月21日(日)

**アンティーク&雑貨フェア**  
●2011年4月1日(金)～24日(日)  
●門司港レトロ地区一帯  
**おさんぽマルシェ**  
●4月23日(土)～24日(日) 10:00～16:00  
●レトロ中央広場  
ハンドメイド雑貨やアンティークなどの販売をヨーロッパの市場(マルシェ)の雰囲気です!

**門司区子どもまつり**  
●2011年4月29日(金・祝) 10:30～15:00  
●門司港レトロ中央広場  
イベントなど盛り沢山! ご家族どうぞ!

**門司港レトロフェスタ**  
●2011年5月3日(火・祝)・4日(水・祝)  
●門司港レトロ地区周辺  
連休の目玉イベント。大人から子供まで楽しめる催し物が目白押しで賑やかに開催!



**門司みなと祭**  
●2011年5月21日(土)・22日(日)  
●門司港レトロ地区を中心に門司区内一円  
ミスポート門司などによるパレードや音楽や芸能ステージなど楽しいイベント満載!



**関門港ボート天国**  
●2011年7月17日(日)  
●門司港レトロ地区  
スイム&ラン(1km泳いで10km走る)も開催。

**海峡花火大会**  
●2011年8月13日(土) 午後7時50分～  
●門司区西海岸



※イベント内容については、都合により変更になる場合があります。詳しくは門司港レトロ倶楽部まで。

※お問い合わせは下記まで、お気軽にどうぞ。

**門司港レトロ倶楽部**  
TEL093-332-0106  
レトロ  
ホームページアドレス  
http://www.retro-mojiko.jp  
門司港レトロの情報は  
http://www.mojiko.info



# The Retro Times

心ときめく感動に出逢えるロマンチック情報紙〈レトロタイムズ〉

2011年・春  
vol.25  
編集発行  
門司港レトロ倶楽部  
〒801-0852  
北九州市門司区港町7-18  
(北九州市旧大阪商船2F)  
TEL 093-332-0106  
FAX 093-332-0109

## 門司港レトロ大正浪漫100年 華やかでハイカラな港町として繁栄



### 一番華やいだ「大正時代」 最先端の国際都市へと成長

平成23年は、大正元年から数えてちょうど100年。そこで、門司港レトロでは平成23年を「大正浪漫100年」の年と位置づけ、大正の歴史や文化などを懐古するさまざまなイベントを行います。大正といえば、門司港が国際港として大いに賑わった時代です。明治22年に開港した門司港は、石炭や米などの重要5品目を扱う国の特別輸出港に指定されると、中国・大連など大陸航路や南方貿易の拠点として目覚ましい発展を遂げます。さらに大正期に入ると、第一次世界大戦の特需に沸き、花形の欧州航路なども次々と開設されました。大正5年には出入港船舶数が横浜港、神戸港を抜いて日本一になっていきます。

港の整備も進み、大正5年から東海岸埠頭の造成工事が、大正8年からは西海岸埠頭の造成工事が始まり、門司港は近代的港湾へと生まれ変わるのです。

港の発展とともにまちは商社や海運会社、金融機関、新聞社などが次々と進出。特に現在の棧橋通りから鎮西橋までの300メートルくらいの間には、銀行などの西洋風の建物が建ち並び、まるでロンドンのようだったことから、「一丁ロンドン」と呼ばれるほどでした。まちは多くの料亭や花街などができて華やかなにぎわいを増す一方で、西洋文化をいち早く取り入れたハイカラなミルクホールや洋食店などが次々と誕生し、カフェやジャズといった港町らしい文化も生まれます。また、通りには路面電車や人力車が走り、街頭ではバナナの叩き売りや猿回しが行われ、洋装のモボ・モガ(モダンボーイ・モダンガール)が街を闊歩していました。日本の伝統的な文化と西洋からの新しい文化が融合し、国際色豊かな都市文化や市民生活が芽生えた大正時代。現在、門司港レトロを代表する建物であるJR門司港駅や旧門司三井倶楽部、旧大阪商船、NTT門司電気通信レトロ館などができたのも、この時代です。



▲鉄道院が設計し、葺川組が施工した木造二階建ての大正三年当時の門司港駅



駅が開設された当時に設置された水道。海外旅行帰国者や戦後の引揚の人達が安堵の思いで咽を潤したことから「湧り水」と呼ばれるようになりました。

100年の時を越えて甦る大正浪漫。懐かしい大正の歴史や文化にふれながら、門司港ならではの「大正浪漫」を心ゆくまで体感してみませんか?

# 門司港レトロ大正浪漫100年祭

特集：心ときめく大正モダンとの出会い

## 大正生まれの瀟洒な建物が語りかける浪漫あふれる歴史

門司港レトロでは平成23年4月3日から12月31日まで「門司港レトロ大正浪漫100年祭」を開催します。レトロ地区には大正時代に建築された建物が今も数多く残っていますが、代表的な建物をご紹介します。当時の門司港の様子を振り返ってみましょう。

門司港レトロの顔であり玄関ともいえるJR門司港駅の駅舎。大正3年に建てられた九州で最も古い木造の駅舎です。ドイツ人技師ヘルマン・ルムシュッテルの監修の下、ネオ・ルネッサンス様式が取り入れられ、左右対称の外観のデザインが特徴です。かつて2階にはハイカラな「みかど食堂」があり、鉄道を利用する人でにぎわっていました。駅舎としては一番最初に国の重要文化財に指定されています。



JR門司港駅の前にある旧門司三井倶楽部は、大正10年に三井物産の社交倶楽部として門司区谷町に建築。平成2年、現在の場所に移築・復元されました。建物はハーフティンバー様式（木骨様式）と呼ばれるヨーロッパ伝統の木造建築工法でつくられ、木造の骨組みがそのまま外観デザインのアクセントになっています。また、ドア枠や窓枠、大階段の親柱などには幾何学模様のアールデコ調の飾りが施され、大正モダンを感じます。当時の門司港の繁栄ぶりを伺い知ることができる、瀟洒な建物です。

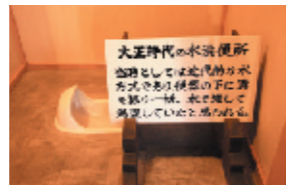
大正12年、相対性理論で有名なノーベル物理学賞受賞者アインシュタイン博士が全国を講演するために来日した際、ここ三井倶楽部に宿泊しました。アインシュタイン博士は、門司港と三井倶楽部が大変気に入ったようです。港周辺を散策して、第二の故郷であるスイスの田舎に帰ったような安らぎを感じ、「できることならここに永住したい」とまで言われたとか。福岡に宿泊した際も門司港の話ばかりしていたそうです。アインシュタイン博士が宿泊した部屋は今も当時のまま保存されています。館内には、門司生まれの女流作家・林芙美子の資料室や「レストラン三井倶楽部」などがあります。この建物も、JR門司港駅と同じく国の重要文化財です。



▲JR門司港駅にある関門連絡船通路跡



▲JR門司港駅2階の展示ルーム

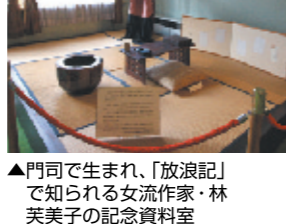


▲当時としては近代的な大正時代の水洗便所



▲大正10年に建築された旧門司三井倶楽部

▼大正モダンな1階ロビー



▲門司で生まれ、「放浪記」で知られる女流作家・林芙美子の記念資料室

アインシュタイン夫妻が泊まったメモリアルルーム



▲蘇った「レトロ建築物」を紹介するコーナー



▲大正から昭和初期にかけての門司港の大正モダンズを展示



▲大正6年に建築された大阪商船門司支店を修復した旧大阪商船ビル



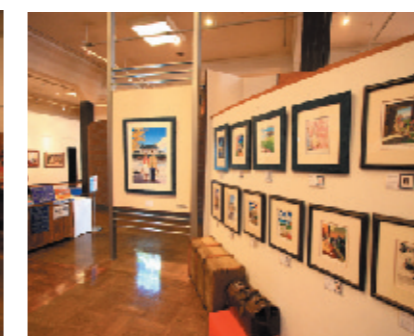
▲2階/海のギャラリー



▲様々なイベントも行われる海峡ロマンホール



▲門司港アート村ギャラリー「港のマチエール」



▲わたせせいぞうと海のギャラリー



▲NTT門司電気通信レトロ館は大正13年に逓信省門司郵便局電話課庁舎として建設され、門司における最初のモダン建築だった。



▲3階の天井装飾



▲大正時代のままの入口



▲懐かしい歴代の電話器が並ぶ展示ルーム



▲化粧直しして蘇ったJR九州本社ビルのエントランス付近

1階では「関門海峡らいぶ館」で楽しめる他、休憩もできる

矢がすりなどのレンタルもできる



▼入口のレリーフ

## ハイカラでモダンな大正期の門司港にタイムスリップ

門司港レトロの中でもひととき目を引く旧大阪商船ビルは、大正6年に建てられました。レンガのように見えるオレンジ色のタイルと白い石の帯が外観を覆い、中央部に八角形をした塔屋が印象的に配置されています。当時、門司港からは中国や欧州などへ向けて多くの客船が航路しており、大阪商船ビルはその拠点の一つでした。1階は大陸航路の待合室として、2階はオフィスとして使われ、胸躍らせて外国へ旅立つ人々で大変にぎわっていました。現在1階は多目的に使用できる海峡ロマンホール、2階は「わたせせいぞうと海のギャラリー」と門司港アート村ギャラリー「港のマチエール」になっています。

門司に電話が伝わったのは明治25年のことですが、大正13年に逓信省門司郵便局電話課庁舎が完成してから本格的に普及が始まりました。この建物は、門司における最初の鉄筋コンクリート造りのモダン建築物で、当時はもちろん、現在も価値ある建築物として注目をあびています。放物線アーチと垂直線を基調とし、「ドイツ表現主義」に通じる手法によって、洗練された大正モダンを今に伝えています。建物は3階建てですが、電話交換機のため天井が非常に高く、通常の4〜5階建てのビルと同じ高さです。現在はNTT門司電気通信レトロ館となっており、1階には明治から昭和までの懐かしい通信・電話機器の展示コーナーが設置されています。

## 大正の歴史や文化などを懐古する様々なイベントを開催

平成23年4月3日より、旧JR九州本社ビルの1、2階部分が暫定オープンします。1階には休憩もできて関門海峡のことがわかる「関門海峡らいぶ館」や、大正矢絣や着物がレンタルできる「きものレンタルステーション」などがオープン。6月には、2階に、現在門司港に住むイラストレーター、黒田征太郎氏を中心としたアートの創造・発信拠点がオープン予定。大正の歴史や文化、そして浪漫を感じることができるイベントも開催されます。たとえば、大正時代に築造された門司港レトロを代表する建物の特徴や当時の様子などを詳しく紹介する「大正まちあるきガイドコース」や、ワンコインで楽しめるバスツアー「アインシュタイン探訪コース」などをはじめ、「きものイベント」、「大正復刻グルメ」など、楽しいイベントが目白押しです。門司港レトロで大正浪漫を満喫してください。



▲大正復刻グルメも味わって



門司港大正浪漫100年祭の詳しいイベントは、このパンフレットをご参照ください

**参加無料** **大正ノスタルジーガイドツアー**

大正時代の門司港の様子や大正時代に建てられた建物にまつわるエピソードなどボランティアガイドによる解説を交えながら案内いたします。

**大正まちあるきガイドコース**

門司港駅(集合)

旧門司三井倶楽部

旧大阪商船

大連通り

関門海峡ミュージアム(解散)

事前申込み不要

◆開催期日/毎週日曜日&祝日

◆集合場所/門司港駅観光案内所前

◆集合時間/13:30~(所要時間約1時間)

**1名500円** **おもてなしの宿の会 ワンコインバスツアー**

**アインシュタイン探訪コース**

期 間/平成23年5~10月・平成24年1~3月  
毎週水曜日(年末年始除く)

時 間/9:30~11:30

コース/YMCA跡~百年長家~旧門司三井倶楽部跡~関門海峡ミュージアム(YMCAホール)~旧門司三井倶楽部(アインシュタインメモリアルルーム)

要予約

■予約・お問合せは、門司港ホテル ☎093-321-1111  
門司港レトロ課 ☎093-322-1188

●集合時間/9:20 ●集合・解散ともに門司港ホテル  
●先着20名様